



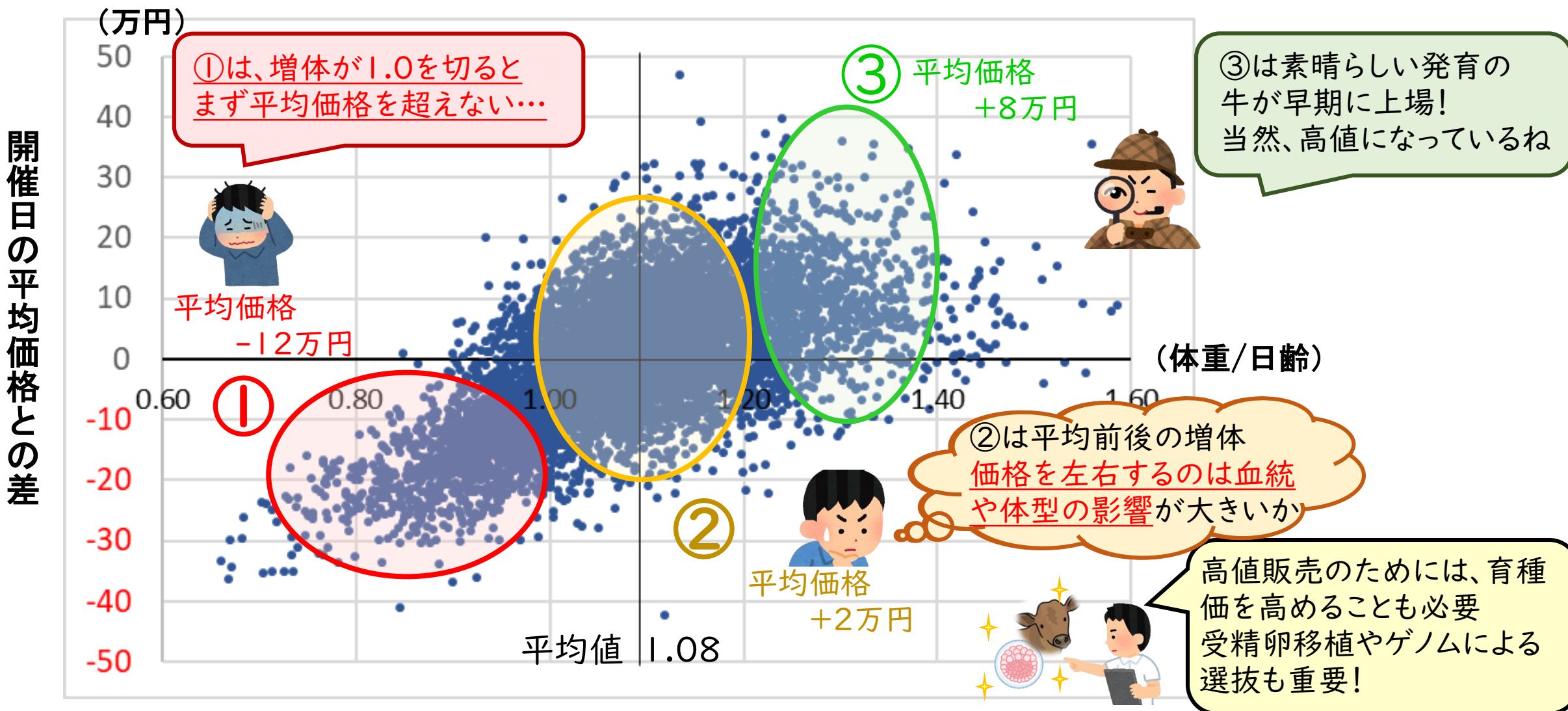
時代はコスパ！高値を狙う子牛作り

新緑の候、田植えや一番草の収穫等、本格的な圃場作業シーズンの到来ですね。春先から子牛相場が持ち直し、一安心していることと思います。今月は中央市場における子牛増体と販売価格の関係から、増体の重要性についてお伝えします。

1 子牛の増体と販売価格の関係

令和6年の中央市場で売買された子牛（去勢）の増体（体重÷日齢）と、開催日の平均価格との差をグラフにまとめたところ、3つの事が見えてきました。

表：令和6年中央市場における増体と価格の関係



- ① 増体が1.0kg/日を下回る牛は、ほぼ確実に平均価格を下回る
⇒どんな相場でも、子牛の増体を確保する必要がある!右ページで基本管理を見直そう!
- ② 平均的な増体(1.0～1.2kg/日)の牛は、血統や体型により価格はピンキリ
⇒計画的な牛群更新や、血統構成の見直しで1ランク上の価格へ!
- ③ 増体が1.2kg/日超の牛は、基本的に高値。②よりも10日程若く上場
⇒順調に発育したものが250～270日台など早期に上場。価格は血統や体型で差がある



実録!!

某肥育農家の声

去勢子牛を買う時重視する順番は、

体重>>体高>>血統（育種価）>>価格

体重や体高の発育面は絶対妥協できないな!

2 コスパの良い子牛育成ポイント

左ページのように、どんな牛でも**増体が確保できなければ高値販売は望めません**。資材高が続く今こそ、飼養管理を再確認して高値を狙える子牛作りを！今回は特に重要な、コスパの良いポイントを紹介します。

① 初期を制すものは子牛を制す!?

子牛の発育は、体高・骨格が最も伸びる**生後3か月間が勝負!**ここで下痢や風邪で発育が遅れると、取り戻すのはほぼ不可能!**母牛の増し飼い、生後6時間以内の初乳給与、スターター給与、推奨のワクチン接種**等で子牛を守りましょう!



子牛の黄金3点セット!



増し飼いねえ…太り過ぎは良くないって言うし、それに、増し飼いすると過大仔になって分娩する時苦勞するだろ?しなくていいんじゃないか?

やめて!!**増し飼いと過大仔は関係ないと言われているのよ!**
それどころか、**低栄養から分娩が遅れてかえって難産になるわ!**

それに、お母ちゃんが低栄養だと僕らも**免疫が弱く生まれて下痢や風邪になりやすい**んだ…せっかくなら元気に大きくなりたいよー!

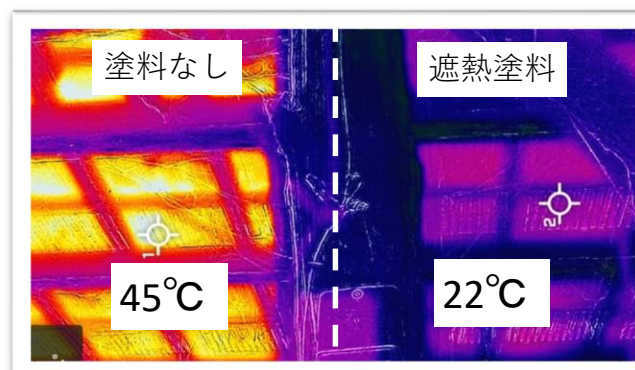


② 子牛はか弱い生き物…とにかく保護! 保護!! 保護!!!

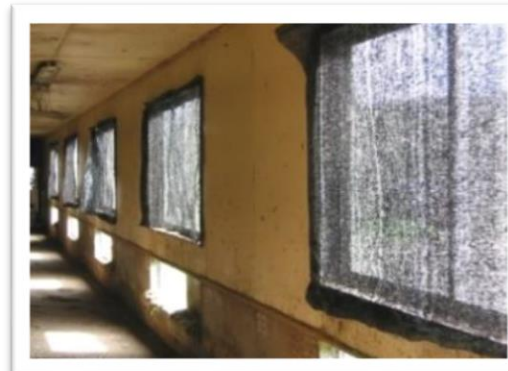
親牛と違い、子牛は暑さ寒さといった環境の変化にとっても弱い生き物です。乾いた牛床やいつでも飲める新鮮な水を用意するのはもちろん、これからの季節は暑熱対策に気を配りましょう。



乾いた牛床で快適!
余計なストレスカット!



トタン屋根への遮熱塗料塗布の効果測定サーモカメラ画像 (R7.5.14)



寒冷紗による遮光
低コストで施工可能!

繁殖サイクルを回してガッチリ ~見えない儲けをわしづかみ!~

1 繁殖管理の意義

繁殖管理はズバリ! 経営管理です。牛群の分娩間隔が短いほど、経営はプラスになります。1年間の市場成績等から試算すると、分娩間隔の延長は**1日当たり約1,800円の損失**です。



言い換えると分娩間隔を短縮することで、子牛相場に左右されず利益を出せる!

毎日配合を1頭につき1袋捨てる
くらいの損失...

県では、分娩間隔の目標を380日に設定しています。
分娩間隔を412日(県平均)から380日まで32日短縮させると、母牛1頭当たり
 $1,800円 \times 32日 =$ **57,600円の利益**となります。

⇒ **20頭規模なら115万円!**



子牛約2頭分の販売額!



子牛販売額のように目に見えないけど、これは見逃せない!

分娩間隔の短縮には

①母牛の栄養管理

②分娩後の初回発情をいかに早く見つけて授精するか

が重要ですが、何よりも**「畜主が1年1産を達成しようとしているか」**が大事になります。今年度は、このスペースで分娩間隔短縮のための母牛の管理をお伝えします。

県飼養管理マニュアル
のダウンロード→

